

ネパール政治ニュース (17年12月) ヘッドライン

政 治	
内政	<p>(1) 4日、ブダニルカクタ (カトマンズ盆地北部) において、支援者と共に、選挙運動のために戸別訪問を行っていたガガン・タパ元保健相を狙ったIEDが破裂し、タパ元保健相は背中と右耳に軽傷を負った。</p> <p>(2) 7日、第二回連邦下院・州議会選挙が、丘陵部及び平野部の45郡で実施された。本選挙は、上記45郡における128名の連邦下院議員及び256名の州議会議員と各々の比例代表議員を選出するもの。小選挙区の連邦下院議員立候補者は1,663名、州議会議員立候補者は2,819名であった。ヤダブ選挙管理委員長は「今次の一連の選挙は憲法の実施に大きく貢献した。これによって、政治的移行期が完了すると信じる」と述べた。</p> <p>(3) 11日、連邦下院・州議会選挙の現段階での開票結果が「左翼連合」(left alliance) に有利な状況を受け、KPオリ・ネパール共産党統一マルクス・レーニン主義派 (UML) 議長及びダハル・ネパール共産党マオイストセンター (MC) 議長が、両党の勝利集会で「勝利宣言」を述べた。</p> <p>(4) 12日、選挙大敗を受け、ガガン・タパ議員やプラカシュマン・シン議員といったNC指導者の一部からは、デウバ首相のネパール・コンGRESS (NC) 党首辞任に係る要求がなされている。</p> <p>(5) 14日、連邦下院・州議会選挙のうち、小選挙区部分の開票が完了した。連邦下院については、左翼連合 (UMLとMC) が116議席 (各々80議席と36議席) を獲得して勝利し、与党NCはわずか23議席に止まった。また、州議会についても、左翼連合241議席、NC41議席と殆んど同様の結果となり、NCはいずれでも第3党に転落した。</p> <p>(6) 17日、各紙は、連邦下院選挙の比例代表部分の開票が完了し、左翼連合 (UMLとMC) が46.89% (各々33.24%と13.65%) を獲得した一方、与党NCは32.77%である旨報じた。なお、選挙管理員会は、連邦上院議会選挙の結果が出るまで、連邦下院比例代表選挙の最終得票数を公開しない旨述べている。</p> <p>(7) 20日、政府スポークスマンを兼ねるモハン・バスネット情報・通信相 (NC) は、記者会見にて、2ヶ月前に立法議会から大統領に送付された上院選挙規則 (ordinance) 案を、大統領が承認することを求めた。</p> <p>(8) 22日、ダハルMC議長は、「左翼連合」選挙協力の発表前に、KPオリUML議長との間で、首相職を相互に2年半交代することで非公式な合意 (「紳士協定」) に達していたことを明らかにした。これに対し、複数のUML幹部は、両党間のかかる合意の存在を否定しつつ、政治</p>

	<p>的安定を求める国民の声を尊重し、KPオリ議長が5年間首相職を務めるべきだと述べた。</p> <p>(9) 22日、選挙管理委員会が州議会選挙の比例代表部分の各党別の議席割当数を発表し、州議会選挙の議席配分が決まった。主要三政党の総獲得議席数は、UML243議席、NC113議席、MC73議席であった。</p> <p>(10) 29日、ビディヤ・バンドリ大統領は、約2ヵ月前に立法議会から送付された連邦上院選挙規則案を承認した。同案によると、全7州において計56名の連邦上院議員が選出されることになる。なお、バンドリ大統領は、各政党に対し、同法案に関する速やかな問題解決を求めているが、政権与党であるNCは、大統領は行政府の提出した規則案の内容を云々する立場にはないと主張していた。</p> <p>(11) 31日、ヤダブ選管委員長は、憲法第84条第8項に基づき、連邦議員の33%が女性議員で構成されるよう、連邦上院選挙の結果が判明してから、連邦下院比例代表選挙の結果を公表する旨述べた。</p>
<p>外交</p>	<p>(1) 6日、堀井巖外務大臣政務官は、日本の選挙監視团团長として、ネパールを訪問した。堀井政務官は、7日に行われた連邦下院・州議会選挙の投票視察を行うと共に、バンドリ大統領やヤダブ選管委員長を表敬した。</p> <p>(2) 21日、ナレンドラ・モディ首相が、シェル・バハドゥル・デウバ首相、KPオリUML議長、ダハルMC議長とそれぞれ電話にて会談した。</p>